いわき民報

發行所 いわき民報社
平市四町目一番地

萩原義雄氏市長に推擧

自由黨の地方選擧對策正式決定

參議十、市長選擧を一ケ月の間近に控へ、自由黨の態度は地方民から注目されてゐるが、一日の會合で參議員諸橋久太郎、代議士關內正一、市長萩原義雄、縣議金古政通の四氏を推薦することに正式決定、市長闇取引の流說も一掃された

參議員候補諸橋久太郎氏

自由黨の選擧對策協議會は一日午後六時から市內マルトモホールに開催、出席者は各區の黨友四十余名で、主催者の自由黨縣幹事長關內正一氏遲刻のため、野澤武藏氏開會の挨拶を述べ、滿場一致金古政通氏を議長に擧げ選擧對策協議會に入つた

參議員問題　先づ金古議長から參議院議員について「自由黨と進步黨が合流した縣民主クラブは參議員を本縣の定員四名公認することに決定した、このうち原則的に中通り二名、會津方部一名、濱通り一名推薦することに決定してゐる、濱通り地方は目下のところ、參議員の資格審査を受けたものは諸橋久太郎と赤津庄兵衛の兩氏のみである、自由黨としては何人を推すべきや」と諮り、滿場一致で現貴族院議員諸橋久太郎氏を推擧することに決定、野澤氏から「諸橋氏を推す以上單に決議だけでなく、一歩進めて極力同氏の決意を促すと同時に縣民主クラブの公認を求めるべきである」と出席者から交しよう委員を擧げることを提案、これも意義なく七名の委員を選任することになつた、（關內幹事長小澤專七郎氏同伴して來會）關內氏は遲刻を謝し小澤氏を紹介、小澤氏はこの會合に關係のない自分が出て來たことは誠に申譯ないが、實は私の經營する日本製塩勿來工場の竣功式に關內氏が臨席され、引續き他の會合に出て貰つた爲關內氏の出席をおくらせたことになり、陳謝の意を表すに上つた次第である」とおわびの言葉を述べて退場

やみ取引解明

關內氏斷呼たる態度を示す

平市長問題　金古議長から市長問題についてはかり、關內氏起ち「世上に平市長の選擧問題をめぐつて闇取引きが行なはれた如きデマが流布されてゐるが甚だ遺憾である、自分は過去に於ても將來とも期る政治を冒讀する如き行爲は斷じしないつもりである」と斷乎たる態度を示し、次いで「市長候補に自分を推すものもあるが、自分は前回の代議士選擧に敗れて居り、初想を貫徹するため今回も立候補するつもりである、新議院法に依ると議會は百五十日開かれ、その他役職につくと半ケ年は空席になるため戰災復興をはじめ重要な市政と代議士を兼任することを許されず、從つて自由黨からは市長候補者を一名も出さぬことになつた」と代議士一本槍で進むことに就て諒解を求め、金古議長から「現在市長選擧の資格審査を受けてゐるのは鈴木辰三郎、萩原義雄兩氏であるが自由黨としては自由な立場に立つか、乃至は鈴木、萩原兩氏のうち何れかを推すか」について意見を求め、萩原氏の起意、民主クラブの性格、同氏の態度等に關して活潑な意見が開陳されたが、結局平市長には萩原氏を適當と認め、自由黨として正式に萩原氏を推擧、極力同氏の當選を期することになつた

縣議は金古氏

滿場一致で決定

縣會議員　平市を地域とする縣會議員候補者について關內氏から「永山勇吉、松本德一、山野邊義政、正木昌次郎、金古政通の五氏を考慮に容れてゐたが永山、松本、兩氏は辭退あとの三氏が意志は聞いてゐない」と報告、臨席の山野邊、正木兩氏とも各々立つて意志のないことを表示し、金古氏を適任と認めて推擧滿場の拍手に迎へられて金古氏の縣議補候に推薦を決定、金古氏の挨拶があつた

郡部の縣議候補者については關內幹事長に一任、次回會合の席上關內氏から經過の報告を求め、市郡を通じて萬全を期することになつた

市會議員　自由黨として同志が一括して資格審査を受けたいが――と金古氏から同志の結集を求め、關內氏は今夜お集りの皆さんに是非立候補をお願ひしたい」と多數の起意を促し、個々の意見を求めたが決定に至らず、近く關內氏が別個に訪問して起意を確めることになつた

萩原氏を決意

近く進步黨お脫黨

別項自由黨協議會で選は任された交しよう委員山野邊義政、山野邊陽、瀧口豐、鈴木勇、鈴木庫左右、小菅榮之助の七名でこれに關內正一金古政通兩氏を加へ二日午前十時諸橋久太郎氏を訪問したが諸橋氏不在のため實弟元三郎氏に協議會で滿場一致參議員候補者に推薦した旨述べ快諾方を奬め追つて確答を求めることになつた引續き同委員一行は萩原市會議長宅を訪問したが、期せずして市會議員協議會の交しよう委員永山勇吉、野崎滿藏、小野金太郎の三氏も來合せ極力同氏の決意を促したところ、快く承諾するに至り今明中に進步黨石城支部長お脫黨し白紙に歸つて市長選擧に臨むことになつた

これで三萬五千市民から注目されてゐた市長選擧も鈴木辰三郎氏と萩原義雄氏が一騎打ちを行ふことになつた

發電能力回復

產業用も中旬には

制限解除されるか

四、五日來の雪どけと日朝來降りつづいた雨によつて生產にぐつとひびいていた電力制限の前途も明るくなり凱歌があがつた、管內に木戶川、四時川、夏井川の三發電所をもつ東配平營業所の發電能力は二萬三千キロで二日現在では殆んど發電能力おとり戾し目下制限中の產業用第五段の解除も今月十二、三日頃と見透しがついた

トラから

轉落轢殺

山田村井上農井川ミヨシさん（二四）は病院からの歸途、柏木正（三二）運轉の三和炭鑛のトラックに乘り植田町仁井田地內を疾走中轉落、后部車輪で頭部を轢かれて即死

ワラ工品增產に

あくまでも藁工品增產と五十萬九千百貫の割當達成に

―確保委員會結成さる

會長には小林農業會支部長を

このほど郡に藁工品確保委員會石城支部を結成、三日午前十時から平市湯殿山に初委員會を開いた、同委員會は生產計畫の樹立ずいしんをはじめ縣內藁工品需給の調整をはかるもので地事、食檢、農業會、工場生產者、大口消費者、主要町村農業會等を網羅、役員に左の諸氏を推した

▲會長▲縣農石城支部長小林豐廣、▲副會長▲同生產課長永山直猪、▲顧問▲石城地方事務所經濟課長高田彌內、食檢支所長小田登、▲委員▲小野健一（地方事務所）、山崎郁子（食檢）荒川淺次郎（縣農指定工場平）、矢內藤太郎（同湯本）鈴木勇（同平）、酒井專治（縣農石城工場長）服部梅雄（品川白煉瓦湯本工場長）、小島祝（吳羽綿工場長）木田森之助（夏井村農業會長）、木村忠一（大野村農業會）、吉田勝記（泉村農業會長）、細野武雄（農業會石城支部）、岡山勇、永山定、坂本喜平、村井忠、草野正雄、渡邊肇、佐久間充孝、佐川濟、永久保俊策（以上農業會石城支部）▲常任委員▲清野庄十郎（農業會石城支部）、芳賀次男（同）、田仲安雄（同）

鄉土にほこる

世界的鹽工場竣成

日本製鹽株式會社勿來工場の竣功式は既報の如く、朝野の名士五百余名招き、新裝成つた新工場の中央廣場で擧行された、定刻神式に依つて竣工の儀式が進められ、小澤社長、福島縣知事、西田勸銀總裁の順で玉串奉典、式後宴會場に席を移して建設部長三宅博士の工事に關する苦心と經過報告があり小澤社長が民族と鹽、農漁村と鹽、經濟產業復興に如何に鹽が大切であるかと鄉土の勿來海岸に製鹽工場を建設するに至つた動機を述べて挨拶となし縣知事代理大和田內政部長西田勸銀總裁中野代議士等來賓を代表祝辭を述べ、中野代議士は小澤社長の實姉ブンさん（五七）を壇上に連れ出し「左前に成つた小澤家の江戶屋をして今日あらしめた女丈婦であり小澤社長の事業を成功せしめた陰の功勞者である」と紹介滿堂の拍手を受けた、引續き余興の幕が開かれ盛宴を極め、午後三時頃式を閉じ、植田町みどり屋と市內谷口樓に第二次宴會を催した

同工場で產する砕氷は日產三百トンに上つてゐるが研究の結果氷に成功を收めたので、氷不足に惱む漁業方面に大なる福[illegible]冷凍に依る製鹽法は三宅博士の苦心研究が成果を收め、[illegible]以上注目され、戰時中は遂に軍部の容れるところとならなかつたが、小澤氏のけい眼が今日の成功をもたらして至つたものである、目下のところ冷凍式製鹽法は世界でも最初の[illegible]大工場を建設したことは鄉土の誇りでもある

坑木輸送表彰

無缺勤者その他を

石炭增產は先づ坑木からと地方事務所では生產者を始め各關係當局に呼びかけ坑木增產につとめる一方警察當局と、協力輸送の完璧を期した結果、去月十九日來十日間の輸送成績は割當四萬石に對して四萬四千三十一石という好成績をあげたので全所では[illegible]一日も休まず輸送に敢闘した松本信治（下小川）佐藏光明（同）岡田利一（赤井）の三氏と八日間の實働者たる草野房右衛門（上小川）佐藤實（赤井）酒井留治（下小川）の三氏に對し三日それぐ〜表彰すると共に地下足袋等を報奬として[illegible]な輸送の內譯は左の通り

▲山元―炭鑛二四一四石▲山元―驛まで二〇一七石

坑夫二名

落盤壓死

常磐炭鑛磐崎鑛採炭夫磐崎村上湯長屋岡部松男（四五）同島定男（二八）兩名は去る二十七日午前二時半頃落盤で即死

湯本鑛で

一名即死

落盤のために

湯本町大字日渡採炭夫脇坂良清さんは一日午後六時頃湯本鑛四坑で落盤で即死

津波退避訓練

けさ一齊實施

平署管內の地震による津波退避訓練は三日午前五時から一時間小名濱、江名、豐間、四倉、高久、夏井、草野、大浦の海岸地帶で行はれた、測候所から警報を受けた平署では小名濱、江名、中ノ作、草野、大浦、四倉に警察電話で又豐間、高久、夏井の各役場地方事務所に普通電話で傳達、役場は各部落の末端までにサイレン又は信號傳令で傳達地方事務所は町村役場を除いた郡內全官公署に傳達、役場では又避難所を指定し一般の避難訓練を行つた

いわき寸言

◆市長公選に萩原市會議長いよ〜立つ決意を固むこれで市長の闇取引などの妙な噂も一度に解消

◆產業用の電力も昨今發電能力の回復に依つて中旬には制限第五段の解除もつくかとみえるうれしいが解除に氣をゆるめる勿[illegible]

◆[illegible]訓練をただの訓練とするな萬一の實際的精神を持續すべし

◆坑木の輸送順調に進[illegible]

◆引揚者を利用する惡[illegible]要救護者を食ふ惡[illegible]斷乎許すべからず[illegible]で御注意を

小兒科
內科
酒井醫院
平市南町
電話五五番

諸演藝一般取扱
伊東分家
共榮合作社
鈴重興行部
責任者 鈴木重雄
部員 池田寬
山內恒佐
平市新川町 電話四三二番

目指す縣議戰

市郡からの資格申請者

出したわ實に三十三名も このほかにも未だあるぞ

來るべき縣議戰えの立候補をめざす資格審査申請は二十五日で締切られたが、市郡下からの申請者の現在までの顏ぶれは左の通りで計三十三名に達している

◎大内近雄（四二）第一通信工業常務取締役平市、社會黨◎日野利春（四三）商業、ゆ本町社會黨◎山田義一（四〇）土木建築、勿來町◎神谷乘次郎（五二）神谷工業社長、平市無所屬□大嶺庫（五〇）辯護士、平市◎金古政通（五〇）いわき民報專務、平市無所屬◎大河原茂平（四八）味噌醬油釀造、好間村、無所屬◎坂本龜太郎（六〇）炭縣議、植田町進步黨◎かし村清（五〇）新聞記者、植田町無所屬◎齋藤晃（四六）、縣遺族連合會長、小名濱町發正會◎渡邊武之進（五三）會社員、勿來町無所屬◎箱崎義一（五八）無職、植田町、無所屬の横田定好（五二）自動車乘製材業、勿來町無所屬植田萬次郎（四八）製材業 四倉町、無所屬◎星友太郎（五三）味噌醬油釀造、錦町、無所屬◎志田要三郎（五三）木工會社長、植田町無所屬◎鈴木孝章（五七）村議、泉村無所屬◎かも英彦（四四）會社員錦町、無所屬◎駒木根忠三（六三）農業、小名濱町、無所屬◎青天目信次郎（六九）農業勿來町、無所屬◎田子英夫（三五）硫酸製造工、錦町、無所屬◎綠川良美（四〇）村議、田人村、無所屬◎赤津甚吾（五二）農業會理事、植田町、無所屬○小野敏彌（五二）木材業、川部村、無所屬○山内眞一郎（三〇）會社員、双葉郡木戸、發正會○金賀倣彥（三八）十檢車區助役、草野村、無所屬○木田森之助（六二）農業會長、夏井村、無所屬○小野義一（三九）酒釀造業小名濱町、無所屬○馬目武之助（五七）染物業、平市、進步黨○田畑金光（三四）會社員勿來町、社會黨○桑原徹（四〇）計理士、平市、社會黨○豐田豐（五七）漁業會理事、植田町、無所屬○成瀨巴三（五二）請負業、植田町、進步黨

完全な商港に

小名濱改修計畫で 本省から調査班が

小名濱を本來の面目たる商港としての姿を取り戻させようと國では新考想の下に全港修築改訂五ケ年を樹立、再建日本の一商港としてその機能を完全に果させるため、これが豫算化の資料集めに去る二十五、六の兩日運輸省吾妻林官、港灣局上野林官等の一行が來港、詳細な現地調査を遂げると共に漁業會、地元有力關係者連とも懇談を遂げた、新修築案は現在の三千トン岸壁を完全に最大機能を發揮させるよう未完成の防波堤の位置をも變更することになつているもので一切は港灣い員會で豫算化する

計畫年次短縮 漁業會が陳情

小名濱漁業會では漁船の破損その他をも考慮事業費一千萬圓程度を立替えるから事業計劃の短縮方を陳情したので豫定よりも早く實現化をみるのではないかとみられている

ひゞかない値上げ

◇きのうの平驛◇

二割五分の引上げは乘車客には幾分ひびいた値上げ初の一日の平驛をみると値上げもなんのその相變らずの切符買の行列がつづいている、全驛正午までの切符の賣行をみるとさつぱり値上げもひびいていない

▲常磐線下り草野一三、四倉三四、久ノ濱三八、木戸二、富岡二四、▽全上り綴五〇、ゆ本五四、泉二四、植田四三、勿來四三、關本七、日立三、土浦一一、東京四、△磐越線赤井二八、小川鄕三六、小野新町七、郡山一〇、福島六

野菜自給增産

農業會支部の計畫

農業會支部では野菜自給自足をはかるため郡下に野菜畑五千九百三十反を割當て反當五貫を目標に二百七十六萬五千貫の増産をはかることに決したが、供出對照は次の通りである なおこれがため平市を始め植田、大浦、泉、草野、好間、山田、飯野、神谷、夏井の一市一町七ケ村に種苗採種園をも設置する

（單位反）

なす六〇〇 きうり五〇〇 かぼちや八〇〇 大根二五〇 漬大根七〇〇 白菜四〇〇 にら二〇〇 にんじん四三〇 ごぼう三五〇 ねぎ五〇〇 ほうれんそう二〇〇 里芋一〇〇 たまな二〇〇 雜菜三〇〇

運賃

一躍二倍に 新荷物の

列車乘車賃金の二割五分引上げに呼應して小荷物、手荷物、手配荷物等の輸送賃も一躍倍に値上げされた、新料金は左の通り 括弧内は舊運賃）

●小荷物十キロまで二圓（一圓）●手荷物三十キロまで六圓（三圓）●手配荷物三十キロ迄八圓（四圓）

コンロを自由販賣

地區組合から

平地區配給統組では二月いつぱいで解散となつたが、コンロ約三百個が殘つているので、三日から一週間一個五圓で商組事務所で自由販賣する

縣に委讓

例外許可權 實演つき映畵 最高で十五圓

實演つきの映畵入場料の例外許可の權限は今度地方物價局から縣に委讓されたので今後は内容その他について上演ものを組合經由の上縣に提出すればその都度決定されるなおこの場合も最高十五圓で去る二十五日から實施された

ハム類の價格改訂

ハム類の食肉加工品の販賣價格が今度改正されたが小賣價格は左の通り（單位圓）

品別	一本賣	切賣
骨付ハム	七二	ー
正肉ハム	八〇	八九
寄ハム	六三	七三
ベーコン	八三	九二
ソーセージ	五六	六三

衣類泥棒

内鄕町御厩大山與四太郎さん方では二十七日未明背廣外衣類二十六點を盜まれているのを二十八日になつて發見平署え屆出た

◁映畫紹介▷

松竹作品

假面の街

四日から平館

金ちやんのマラソン選手で好評を博した原研吉監督の復歸第二回作品、脚本は新藤兼人、キャメラは森田俊保ー

……キャスト……

ハル子 村田知英子
くに子 並木路子
せつ子 朝霧鏡子
栗原 高田浩吉
弘ちやん 森川信
弘ちやんの母 高橋豐子
田島 榊保彥
所長 西村青兒
夫人 若水絹子
倣子 空あけみ
組合員 長尾敏之助
野村 木田三千雄
島村 牧周一
山口 坂本武
課長 奈良眞養
同 大坂志郎
同 佐藤護
同 玉田慶三郎
鑛夫 人見良二
同

▲梗概▼

東北の或る小さな佗しい劇場では地方巡業も今日で終り、一同手廻りの荷物をまとめて居る。座員弘ちやんは母に會へるのを心から樂しみとしてゐた。

この時、劇場の前に高級車が止り栗原が紳士然と座長ハル子に面會しに來る。この二人は數年前レビュー團に働らいて居たのだつた互ひに力をつけ合つて栗原はフリユート、ハル子は舞踊であつた。訪れた栗原はこゝの炭鑛の所長秘書であり、今度ハル子一座に昔の友達甲斐に炭鑛の慰問演藝を依賴する。ところが實は炭鑛では從業員の住宅問題等を含み爭議があり、栗原はそのモミ消し對策にハル子一座を利用する魂たんだつた。

住宅も直ぐ建つ樣な事を從業員にほのめかし、所長やその夫人と令孃とに取り入つて居た。ハル子一座と會社側課長等を一夕料亭に集め、組合委員を呼び組合の弱體化を計つたが、委員に先づ課長連が一座の女の子を藝者同樣に酌を强ひたりする爲に憤然として皆引上げる

弘ちやんは母にまだ一座員である事を知られたら母がガツカリすると思ひ、會ふのが氣をくれした、ハル子はその弘ちやんに力をつけ、弘ちやんと共に母の所へ行き、弘ちやんを座長〳〵と呼び母を喜ばす。

ハル子は昔の栗原を愛し、彼に昔の想ひ出話をするが、彼は今は人生觀も變つた君はセンチだと笑でわらふのだつた。

一座は單獨で從業員に慰問する、ハル子は栗原が會社で帝大出の法學士と云ふふれ込みである事を知り、そのうそ言を彼になじるが同じガク士でも學士の方が良いとうそぶく、

栗原はこゝでは一時的に座長となつてる弘ちやんを料亭に呼び、從げふ員の慰安大會に出てくれと云ふが、くり原の組合のモミ消しに狂奔して居るのを知つてゐる弘ちやんは、東京に一座は歸ると斷るとくり原は弘ちやんが僞座長である事をバラすと驚かす。このことを惜毛かへつてハル子に話す。そして一日も早く東京に歸へろうと云ふと、ハル子はくり原が以前夢を抱いた音樂青年だつた過去の溫かい彼のことを語り二人で寫した寫眞を見せる

そして栗原を昔に還したいと願ふ弘ちやんは、くり原を改心さしてやると勢込んで寫眞を持つて出て行く、その足で母のもとに行き打開けやうとすると母の方から彼の大成などは祈らない、上つ端だつて眞面目であつてくれれば良いと云はれ、元氣ばい社長邸に行き、くり原の前身をバラす、明るみへ出たくなかつたくり原は一時姿が見へなくなるが、翌日慰安會で舞臺裏にハル子が這入つて來ると惟すいした、くり原が居る慰問なんかどうでもよいから自分を皆と共に連れて行つてくれとハル子に賴む

ハル子はいきなり栗原を毆り、彼の態度を非難し、從業員の一同に謝るべきだと云ふそのままハル子は又舞台に立つ、番組は「アラルの女」だ。

群舞が終りスポットの中にハル子が獨り浮んだ時、舞台の袖から聽き憶へあるフリユートの音が流れてくる、栗原だ。彼女は栗原を舞台の上に引き上げる栗原は皆に過去を謝し從業員の最先頭に立つて戰ふ事を誓ふ。やがてハル子はスポットの中でポーズを決める。フリユートの音が靜かに空氣をふるはす。激しい拍手の中にフリユートと共にハル子が踊り始める。

短歌

石城歌話會詠草

第四回

渡邊淸子

折からの風にふかるる棕らんの葉が入日の光をまばゆくはじく

佐原喜久司

街角を曲り來しときびしやびしやと雪解の道をゆく人ありき

遠藤亞人

淡雪の解けて雫の光りつつほつ〳〵梅の花くれなゐに

小野卓子

撓りきて屋根に着きゐる若竹の雪落ちしかどもとへかへらぬ

◇御申越次第型錄進呈
金庫は甲子
大型金庫 手提金庫 書庫
◇在庫豐富◇
福島縣一手販賣
小名濱、代理店 廣屋商店（ヒロヤ）
小名濱町下町電一六八番
◇輸送付迅速確實

萬年筆大量入荷、
岡萬年筆店
平市 電三九九番

交換
カメラと材料
賣買

カメラ不足につき最高價格で頂戴いたします

福島縣指定事業重點工場
平硝子製作所
平木工株式會社
社長 佐藤幸太郎
專務取締役 足助重雄
本社 市新田町二六
電七。四五五。七七二。
東京事務所 東京都芝區新橋二ノ三八（烏森ビル）
電五七 四八三二
二一二。七三
工場電話 三八九。八三。三五五

買身ふになつて！
サービス本位
あらゆる百貨
卸問屋
さかいや商店
平市六丁目大通り
電話四八五番